



木がなかった頃の「共生の森」(2004年)

「共生の森」(堺第7-3区 約100Ha)では大阪湾岸での自然環境の再生・創成に取り組んでいます。何もなかった産業廃棄物埋立地に、動物や植物は様々な手段を使ってやってきます。



木に登り実を食べるタヌキ(2021年)

植物の遷移

植物は人が植えるほか、鳥、タヌキなどの動物、風、海流など様々な手段でひろがる

人による森づくり



植栽



種まき

野生生物による拡散



動物による拡散



タヌキの「ためフン」に混じる種



鳥による拡散 実を食べる鳥



種の混じる鳥のフン



造成中に残土に紛れて来る



自然を利用して拡散

最初に草がやってくる



風により広がる



海流に乗ってやってくる

多様な自然環境

植生・環境の違いにより住む生き物が異なり、生物の多様性がひろがる



植樹によりできた常緑の林



植樹によりできた落葉の林



自然に形成された環境



草地



水辺

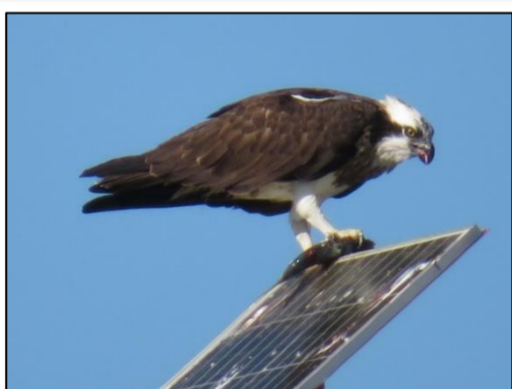
環境にあわせて やって来た 生きものたち



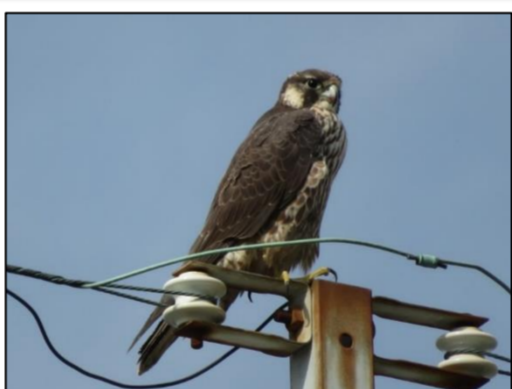
タヌキ



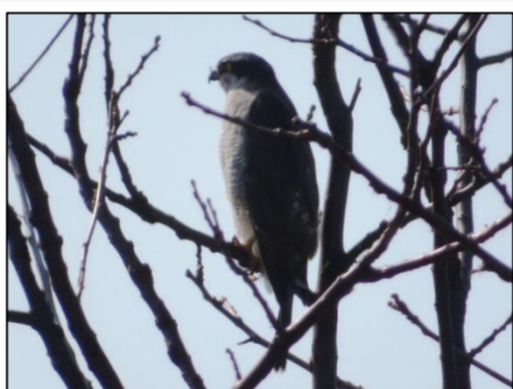
ハツカネズミ



ミサゴ



ハヤブサ



オオタカ



トビ



コミミスク



モズ



カルガモ



ハラサギ



キジ



タゲリ



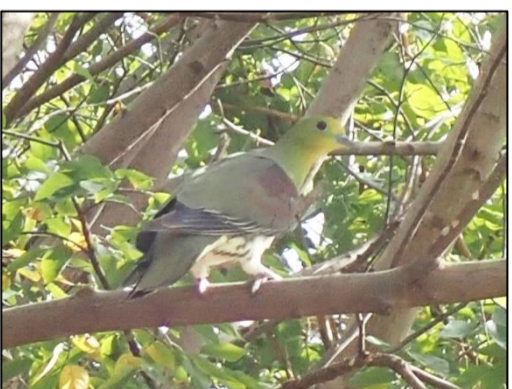
メジロ



オオルリ



ウグイス



アオバト



シマヘビ



カナヘビ



トノサマガエル



ヌマガエル



モツゴ



メダカ



モクスガニ



スジエビ



コクワガタ



コガネグモ クマゼミ



ニイニイゼミ



ツクツクボウシ



コガタスズメバチ



サトクダマキモドキ



キリギリス



トノサマバッタ



ハラビロトンボ



マイコアカネ



ハネビロトンボ



ゴマダラチョウ



テングチョウ



ツマグロキチョウ



アオスジアゲハ



イシガケチョウ

植生の遷移・多様性が進み環境が整うと、その環境に適した生き物が、やって来ます。海を越えて来るものもいます。タヌキやカエル、飛べないサカナはどのようにして来たのでしょうか。